

第6章 参考資料

1 文化や芸術に関する市民意識調査結果

(1) 調査の概要

北九州市の文化芸術に関して、市民の意識等を調査するとともに、調査結果を集計・分析し、文化芸術振興を効果的に推進するための基礎資料を得ることを目的にアンケート調査を実施いたしました。

項目	概要
調査対象	北九州市在住の18歳以上の方
抽出方法	無作為抽出
調査方法	質問紙郵送による配布 郵送又はWEBによる回収
サンプル数	調査票郵送数 3,000票 有効回収数 1,177票 (郵送997票、WEB180票) 有効回収率 39.2%
調査時期	令和5年1月下旬～同年2月中旬

(2) 調査の結果 (抜粋)

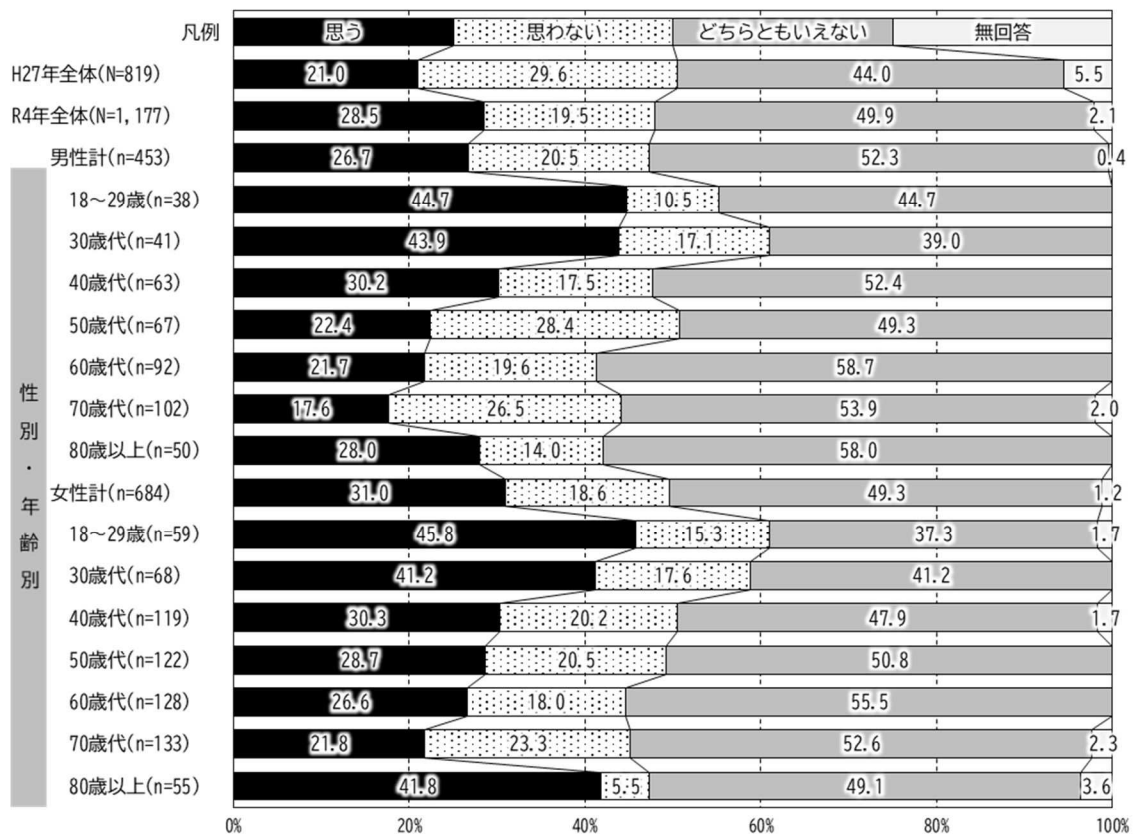
Q 北九州市が「文化のかおるまち」と思うかについて。

北九州市は「文化のかおるまち」と思うか尋ねたところ、「どちらともいえない」が全体の約半数(49.9%)を占めている。次いで「思う」(28.5%)、「思わない」(19.5%)の順となっている。

過去の調査結果と比較すると、「思う」の割合が、前回結果から7.5ポイントアップしている。

性別・年齢別にみると、男女ともに30歳代以下の若年層では「思う」が4割以上を占めている。一方、男性50歳代と70歳代、女性70歳代は「思わない」が「思う」を上回っている。

北九州市が「文化のかおるまち」と思うか



Q 文化や芸術への興味・関心の有無について。

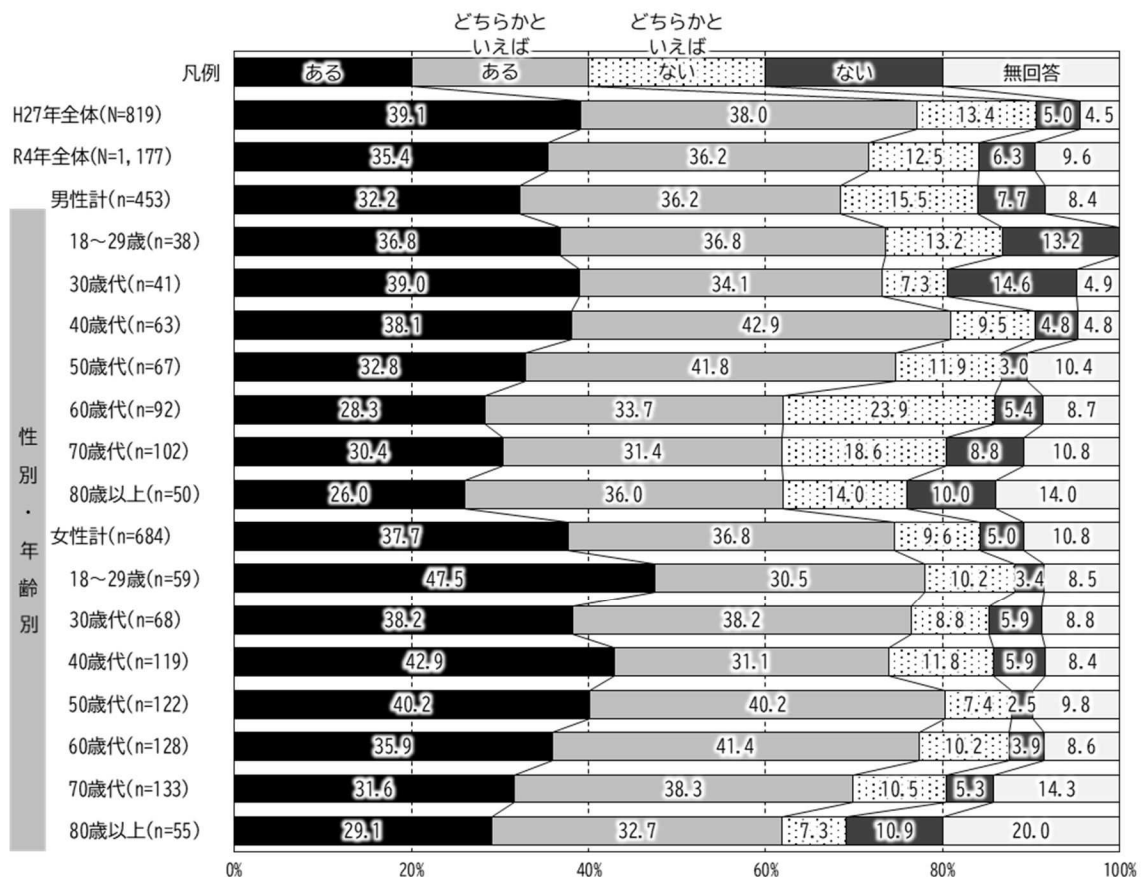
文化や芸術への興味・関心度をみると、『ある』（「ある」、「どちらかといえばある」の総和）は、全体の約7割（71.6%）を占めている。

過去の調査結果と比較すると、前回（H27年）の77.1%からは5.5ポイントダウンしているものの、文化や芸術への興味・関心は依然として高い。

性別・年齢別にみると、『ある』と回答した人は、男性が68.4%、女性が74.5%と、女性が男性を若干上回っている。

また、男性は「40歳代」（81.0%）で最も高く、次いで「50歳代」（74.6%）、「18～29歳」（73.6%）の順、女性は「50歳代」（80.4%）で最も高く、「18～29歳」（78.0%）、「60歳代」（77.3%）の順となっている。

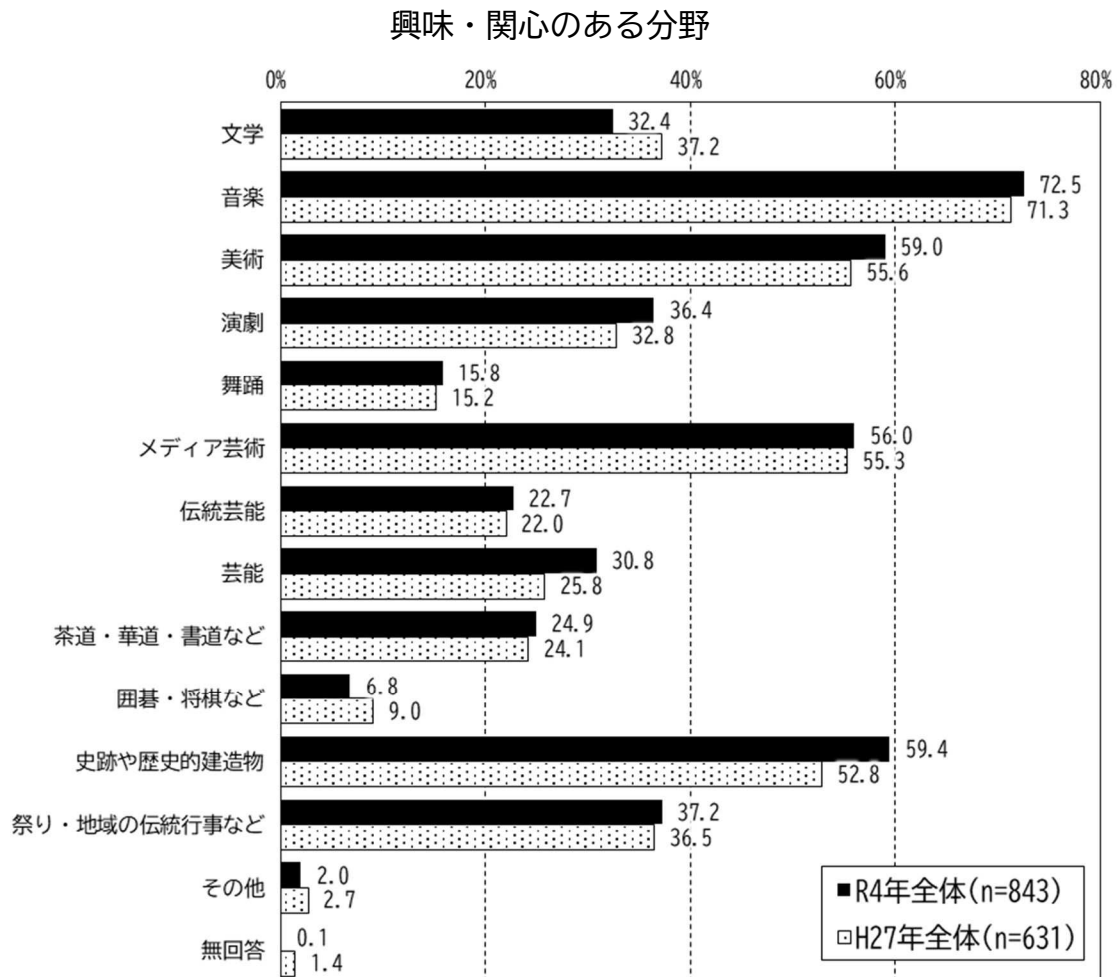
文化や芸術への興味・関心の有無



Q 文化や芸術で興味・関心がある分野について。(複数回答可)

興味・関心がある分野としては、「音楽」(72.5%)の割合が最も高く、「史跡や歴史的建造物」(59.4%)、「美術」(59.0%)、「メディア芸術」(56.0%)を含んだ4分野は回答率が半数以上を占めており、興味・関心が高い分野といえる。

前回結果と比較すると、「史跡や歴史的建造物」(前回比：+6.6ポイント)や「芸能」(前回比：+5.0ポイント)は興味・関心が高まっており、一方で「文学」(前回比：-4.8ポイント)は興味・関心が低くなっている。

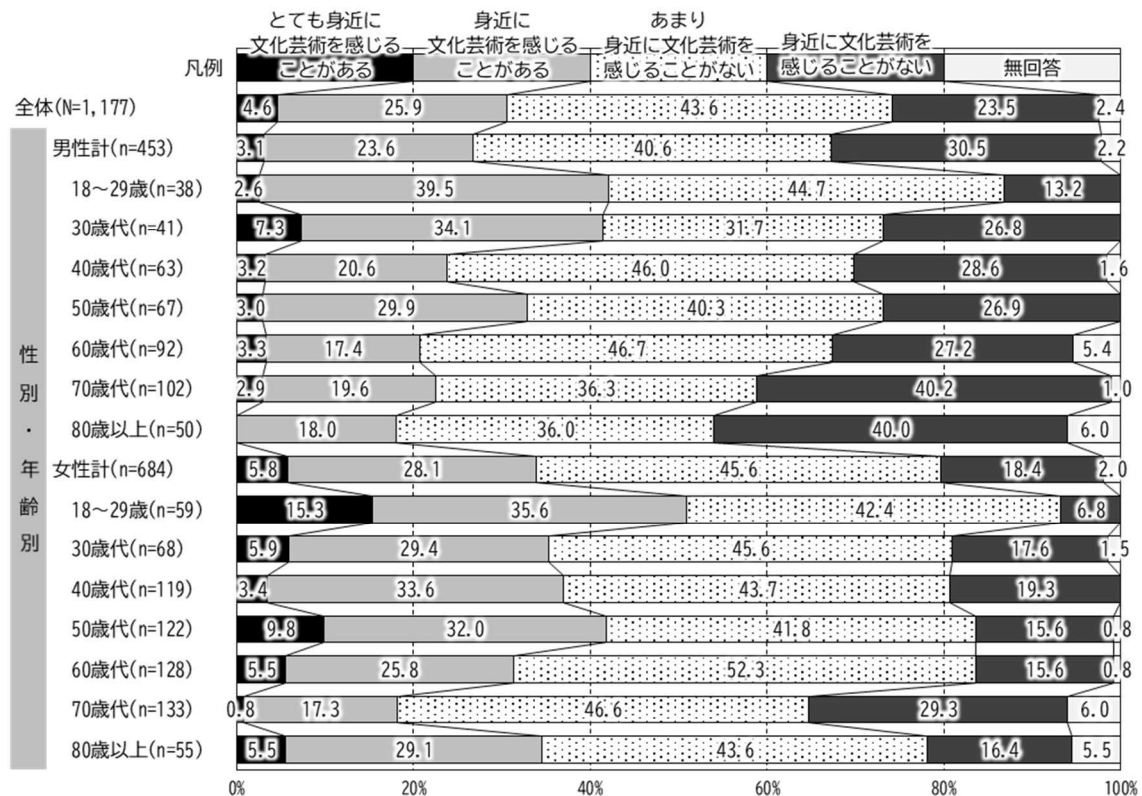


Q 文化芸術を身近に感じるかについて。

身近に文化芸術を感じることもあるか尋ねたところ、『感じる』（「とても身近に文化芸術を感じることもある」、「身近に文化芸術を感じることもある」の総和）が30.5%、『感じない』（「あまり身近に文化芸術を感じることはない」、「身近に文化芸術を感じることはない」の総和）が67.1%となっている。

性別・年齢別にみると、男女ともに18～29歳で『感じる』が最も高く、70歳代で『感じない』が最も高い。また、男性70歳代以上では「身近に文化芸術を感じることはない」が4割以上と高くなっている。女性18～29歳では唯一『感じる』が『感じない』を上回っている。

身近に文化芸術を感じることもあるか

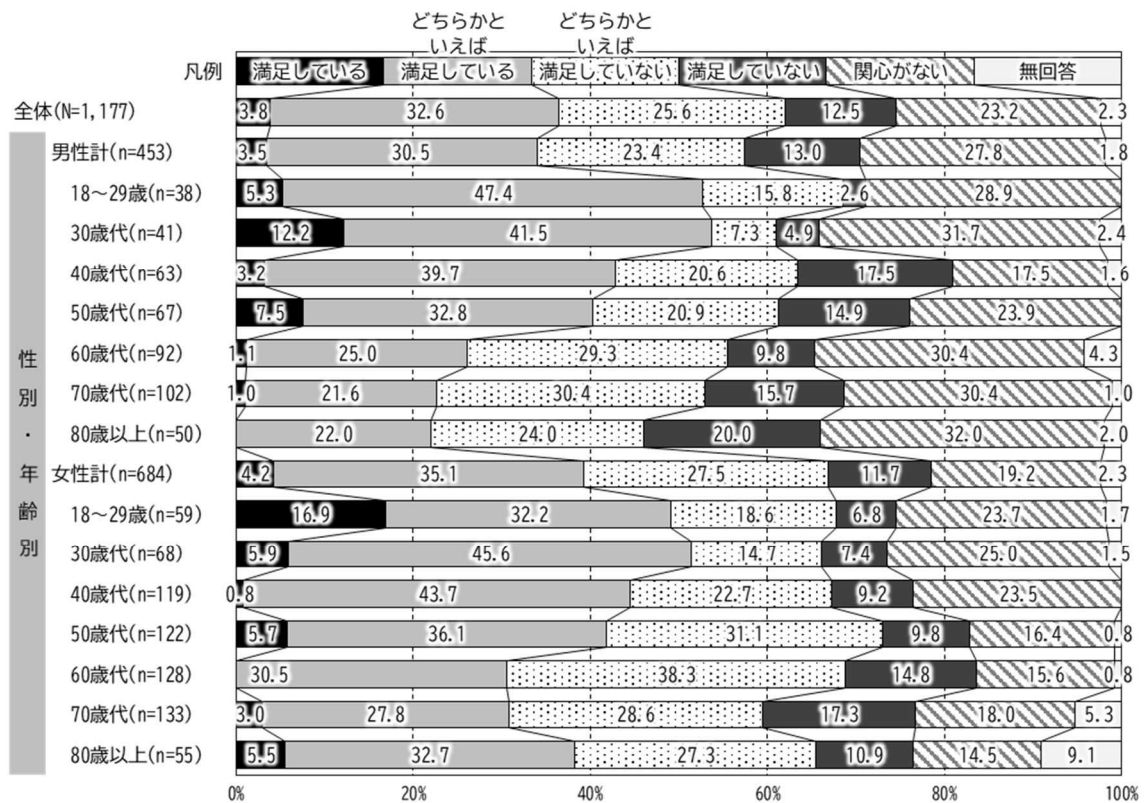


Q 北九州市の文化芸術環境の満足度について。

北九州市の文化芸術環境に対する満足度についてみると、『満足している』（「満足している」、「どちらかといえば満足している」の総和）が36.4%、『満足していない』（「どちらかといえば満足していない」、「満足していない」の総和）が38.1%、「関心がない」が23.2%となっている。

性別・年齢別にみると、男女ともに30歳代で『満足している』割合が最も高い。一方、男性の70歳代、女性の60歳代で『満足していない』が最も高くなっている。女性よりも男性の方が「関心がない」割合が高い。

文化芸術環境の満足度



Q 外出による文化芸術イベントの直接鑑賞（テレビ、CD・DVD、インターネット配信等での視聴を除く）の有無について。

※最近1年間

最近1年間の直接鑑賞の有無についてみると、外出して何かしら文化芸術イベントの直接鑑賞を「した」と回答した人が7割以上(75.7%)を占めている。

性別・年齢別にみると、男女ともに年齢が低いほど直接鑑賞を行なっている人が多い傾向がみられるが、男性18～29歳は68.4%と低くなっている。18～29歳の若年層では男女差（男性18～29歳：68.4%、女性18～29歳：94.9%）が最も大きい。

文化芸術の直接鑑賞の有無

